

柴門ふみさん、三浦しをんさん他 話題の7人の作家により

## 恋人の聖地が恋愛小説の舞台に!

### 小説新潮 12月号「恋人の聖地」特集企画 について

新潮社の発行する月刊文芸雑誌「小説新潮」2012年12月号において、「恋人の聖地」を特集企画として組んでいただくこととなりました。

「小説新潮」は国内の有名作家による作品を掲載している、日本を代表する月刊文芸雑誌です。今年の12月号の巻頭特集企画では「恋人の聖地」をテーマとして、全国の「恋人の聖地」の中から選んだ7ヶ所にまつわる恋愛小説を、7人の有名女性作家にそれぞれ書き下ろしていただきます。

クリスマスからバレンタインにむけて、恋人たちが訪れる「恋人の聖地」にふさわしいロマンチックなコラボレーションが実現いたしました。

#### 【企画の概要】

- 企画名 小説新潮「恋人の聖地」特集
- 雑誌名 小説新潮(出版:新潮社/発行部数:約30,000部)
- 発行号 2012年12月号(2012年11月22日発売)
- 参加作家 7名(下記の通り)
- 恋人の聖地 7ヶ所(下記の通り)

#### 小説新潮「恋人の聖地」特集／参加作家プロフィール・恋人の聖地



##### ■恋人の聖地 愛国駅・幸福駅／北海道帯広市

##### 原田 マハ(ハラダ・マハ)

1962年東京都生まれ。関西学院大学文学部日本文学科および早稲田大学第二文学部美術史科卒業。マリムラ美術館、伊藤忠商事、森ビル森美術館設立準備室にそれぞれ勤める。2005年「カフーを待ちわびて」で第1回日本ラブストーリー大賞を受賞してデビュー。2012年『楽園のカンヴァス』で第25回山本周五郎賞を受賞。近刊に『旅屋おかえり』『生きるぼくら』など。



##### ■恋人の聖地 石のまち金谷／千葉県富津市

##### 大沼 紀子(オオヌマ・ノリコ)

1975年岐阜県生まれ。法政大学卒業後、さまざまな職を経て、フリーライターに。2005年「ゆくとしくるとし」で第9回坊っちゃん文学賞大賞を受賞。脚本家としても活動する中、2010年に刊行した『ばら色タイムカプセル』で注目を集め、2011年『真夜中のパン屋さん 午前0時のレシピ』でブレイク。近刊は『真夜中のパン屋さん 午前1時の恋泥棒』。



## ■恋人の聖地 霧ヶ峰八島ヶ原湿原／長野県下諏訪町

### 窪美澄(クボ・ミスミ)

1965年東京都生まれ。カリタス女子中学高等学校卒業。広告制作会社勤務を経て、フリーの編集ライターに。2009年「ミクマリ」で第8回女による女のためのR-18文学賞大賞を受賞。2011年、その受賞作を所収した『ふがない僕は空を見た』で第24回山本周五郎賞を受賞、同作は本屋大賞第2位にも選ばれた。近刊は『晴天の迷いクジラ』。



## ■恋人の聖地 八千穂高原／長野県佐久穂町

### 千早茜(チハヤ・アカネ)

1979年北海道生まれ。立命館大学文学部卒。小学校時代の大半をアフリカのザンビアで過ごす。2008年「魚神」で第21回小説すばる新人賞を受賞してデビュー、同作にて第37回泉鏡花文学賞を受賞。他の作品に『おとぎのかけら 新釈西洋童話集』『からまる』『あやかし草子 みやこのおはなし』など。近刊に『森の家』。



## ■恋人の聖地 名古屋テレビ塔／愛知県名古屋市

### 柴門ふみ(サイモン・フミ)

1957年徳島県生まれ。お茶の水女子大学哲学科卒業。在学中より、夫・弘兼憲史氏のアシスタントを務め、1979年に漫画家デビュー。1983年に『P.S.元気です、俊平』で講談社漫画賞、1992年に『家族の食卓』『あすなる白書』で小学館漫画賞を受賞。主な作品に『女ともだち』『同・級・生』『東京ラブストーリー』などがあり、『恋愛論』『愛についての個人的意見』などエッセイも多数。



## ■恋人の聖地 宮島弥山 消えずの霊火堂／広島県廿日市市

### 三浦しをん(ミウラ・シオン)

1976年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。2000年、書下ろし長篇小説『格闘する者に〇』でデビュー。2006年『まほろ駅前多田便利軒』で第135回直木賞を受賞。2012年『舟を編む』で本屋大賞を受賞。他の作品に『風が強く吹いている』『神去なあなあ日常』『天国旅行』など多数、近刊はエッセイ集『本屋さんで待ちあわせ』。

撮影／松蔭浩之



## ■恋人の聖地 阿蘇山本堂 西巖殿寺奥之院／熊本県阿蘇市

### 瀧羽麻子(タキワ・アサコ)

1981年兵庫県生まれ。京都大学卒。2007年に『うさぎパン』で第2回ダ・ヴィンチ文学賞大賞を受賞してデビュー。『左京区七夕通東入ル』で、「ダカーポ最高の本! 2010」の女子読み恋愛小説第1位に選ばれた。他の著書に、『はれのち、ブーケ』『左京区恋月橋渡ル』など。近刊は『オキシペタルムの庭』。

撮影／五十嵐美弥(小学館)

※作品のタイトルは未定です。